



# 営農NEWS



## チンゲンサイ栽培における病害虫の防除対策

県内のチンゲンサイ栽培は、ハウスを利用して、周年で定植と収穫を複数回繰り返す体系が中心となっています。

周年で長期に連作栽培しますと、土壌病害の根こぶ病や軟腐病などが発生しやすくなります。また、茎葉病害では白さび病、害虫ではアブラムシ類、コナガ、ハモグリバエ類、キスジノミハムシなどが栽培時期により発生します。この他、露地やトンネル栽培では、白斑病やべと病、アブラムシ類が媒介するえそモザイク病などが、害虫ではアオムシ、ヨトウムシ類の幼虫が多発生して大きな被害になることがあります。このため、土づくりや適正な施肥など健全な土壌環境づくりに努めると共に、各作期や作型にあった適期で的確な防除体系を組み立てることが必要です。

### ＜病害虫発生の特徴＞

冬季は病害虫の発生が少ないですが、早春または晩秋の低温多湿のときには白さび病が、梅雨や秋の長雨期にはべと病、白斑病、根こぶ病などが発生しやすくなります。また、夏季の高温多湿を中心に軟腐病の発生が目立ってきます。えそモザイク病はアブラムシ伝染するため、露地栽培で春と秋に多くなる傾向です。

害虫では、アブラムシ類が春と秋を中心に飛来し、幼虫が増殖します。コナガも春と秋を中心に周年で被害が発生します。ハモグリバエ類にはマメハモグリバエやナモグリバエなどがあり、前者は高温を後者は冷涼な気候を好む傾向です。アオムシやヨトウムシ類などのチョウ目害虫は春と秋に被害が多くなり、防除が遅れると大きな減収を招きます。

### ＜防除対策のポイント＞

チンゲンサイでは登録薬剤が少ないため、薬剤防除のみに頼らない総合的病害虫の管理が必要です。施設内の多湿条件が病害の発生を助長するため、圃場の排水性を良好に改善します。また、過度の灌水は避けて適度な湿度条件に保つよう換気等の励行に努めてください。特に、施設内の頭上灌水は、各種病害の発病を助長しますので、細心の注意が必要です。なお、発病株は早めに施設から持ち出し、発生地点を中心に早めの薬剤防除を実施します。さらに、土壌病害の被害残渣はできるだけ圃場外に持ち出して処分し、必要に応じて夏季の還元型太陽熱土壌消毒を実施しましょう。

害虫やえそモザイク病の対策には、ハウスでは開口部に、露地ではトンネルに防虫ネットを展張して害虫の飛来を防ぐことが最も大切です。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる圃場周辺の雑草等を常に除去するなど、衛生管理に努めます。さらに、定植時に粒剤を使用し、被害の発生を見たら早期除去と薬剤防除を実施しましょう。

表1 チンゲンサイ各種病害に対する主な防除薬剤（令和元年5月16日現在）

対象病害				薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
白さび病	べと病	軟腐病	根こぶ病				
○				ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	21
○				アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	11
○				ユニフォーム粒剤	9kg / 10a 全面土壌混和	定植前 / 1回	4と11
	○	○		Zボルドー	500倍	- / -	M1
		○		スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	31
			○	ネビジン粉剤	20~30kg / 10a 全面土壌混和	播種または定植前 / 1回	36
			○	オラクル粉剤	20kg / 10a 全面土壌混和 20~30kg / 10a 全面土壌混和	播種前 / 2回以内 または 定植前 / 2回以内	21

表2 チンゲンサイ各種害虫に対する主な防除薬剤（令和元年5月16日現在）

対象害虫					薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
アブラムシ類	アオムシ	コナガ	ハモグリバエ類	キスジノミハムシ				
○	○	○		○※	モスピラン粒剤	0.5g / 株 株元散布	定植前日~定植当日 / 1回	4A
○				○	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍 2,000倍	収穫3日前まで / 2回以内	4A
		○	○		ディアナSC	2,500~5,000倍	収穫前日まで / 2回以内	5
	○	○	○		スピノエース顆粒水和剤	2,500~5,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	5
	○	○		○	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	22B
	○	○			アフーム乳剤	1,000~2,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	6
	○	○	○	○	アニキ乳剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	6
	○	○	○マメハモグリバエ		カスケード乳剤	2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	15
		○			プレオフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	UN

注1) ※対象キスジノミハムシに使用するモスピラン粒剤の使用時期は、定植当日の登録です。

注2) 分類欄には、FRACまたはIRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040